

兵庫県保険医協会第78回評議員会のご案内

(臨時(決算)総会・第33回共済制度委員会)

協会はこの半年、審査指導対策、医療改善や、会員の身近な要求に応える活動など、様々な活動を行ってきました。前半期の活動を振り返り、後半期の活動方針を協議するため、標記の会議を開催致します。お繰り合わせの上ご出席いただくようご案内いたします。

■日時 **11**月**14**日(日)**13**時~ / ■会場 兵庫県保険医協会会議室
・13時~ 第78回評議員会
・14時35分~ 臨時(決算)総会

14時55分~ 第33回共済制度委員会

「波乱の金融情勢に三井生命はどう立ち向かうのか」

三井生命保険株式会社常務執行役員 **鶴岡 重幸** 氏

世界的金融危機の発生から3年、日本経済は円高の進行が続き景気の二番底懸念が一層強まっています。国内生保業界にとっては、低金利による運用難に加えて健全性基準の厳格化と、さらにその後の生保版国際会計基準の導入により予想される負債増加等、まったなしの対応に追われている状況です。保険医年金の幹事会社であり、受託シェアの引き下げを要請している三井生命の現状と経営方針は？担当常務に直接聞きます。

16時~ 特別講演

「新自由主義(市場原理至上主義)が亡ぼす日本の医療」

— 政権交代後も医療政策が大きく変わらなかったのはなぜか? —

元ハーバード大学医学部助教授 **李 啓充** 氏



り けいじゅう 1980年京都大学医学部卒業。天理よろず相談所病院内科系ジュニアレジデント、京都大学大学院医学研究科を経て、90年よりマサチューセッツ総合病院(ハーバード大学)。ハーバード大学医学部助教授を経て、2002年より文筆業に専念。米ボストン在住。

昨年総選挙で「先進国最低の医療費を、OECD並みに引き上げる」ことを公約して、多くの医療者から期待を集めて誕生した民主党政権ですが、その後の診療報酬改定など、公約実現の道筋は全く見えていません。それどころか、政府は「日本の医療費はGDP比では米国の半分程度。自費での負担も含めれば、日本の医療費はもっと伸ばせる(オリックス・宮内会長)」などの声に押され、「新成長戦略」「医療ツーリズム」など医療の市場化で自費負担を増やし、医療市場を拡大しようとしています。世界で最も医療の産業化、市場化が進んでいる米国の医療をつぶさに分析してきた李氏を講師に迎えての講演会です。是非ともご参加ください。

返信 FAX 078 - 393 - 1802

第78回評議員会特別講演に 出席します

地区 _____ 氏名 _____

兵庫県保険医協会

姫路・西播支部ニュース

No.167 2010年11月5日発行



発行 兵庫県保険医協会姫路・西播支部 支部長 宗実琴子
連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1807 FAX/078-393-1802

医療安全管理研修会に106人が参加

マスク・手洗いで感染予防



真剣に話を聞く参加者

姫路・西播支部は10月23日、姫路商工会議所で医療安全管理研修会「外来での医療安全管理・院内感染対策」を開催し、50医療機関から106人が参加した。独立行政法人国立病院機構姫路医療センターの医療安全係長・看護師長の吉田保子氏と感染管理認定看護師・副看護師長の三木久子氏が講師をつとめ、外来部門における医療安全管理と院内感染対策についてそれぞれ講演した。

(2面に続く)

(1面続き)

吉田氏は、医療安全管理に対する制度の変化を説明した後、患者誤認防止や苦情への対応など姫路医療センターでの具体的な取り組みを紹介した。医療事故については、「起こってしまったからの対応より、起こらないようにする努力が大事」として、事故を起こさない職場風土を構築しなければならないと強調した。



吉田氏は実体験も交え話した



三木氏は手洗いの重要性を協調

三木氏は、感染予防には汗を除く全ての体液は感染源と考え対応する標準の予防策を基本とした上に、接触・空気・飛沫感染の予防策があると説明。対策としては、マスクと手洗いの徹底の重要性を強調した。また、多剤耐性菌の発生原因や性質、感染経路についても説明した。

参加者からは、「事例も交えてのお話で具体的でわかりやすかった。当院との環境とも重ねて考えることができよかった」「外来受付などに消毒薬はおいているがマスクも置いておく必要があると知った。帰ったら実践しようと思う」などの感想が寄せられた。

西播社保協 秋のキャラバンに向け学習会

自治体に要求伝えよう

協会も加盟する西播社会保障推進協議会(西播社保協、会長・宗実琴子協会支部長)は、11月の自治体キャラバンに向け、10月17日に姫路医師協会館会議室で、自治体への要望事項をまとめた「社会保障制度の拡充・改善についての要望書」学習会を開催し、30人が参加した。



国保などの問題点を共有

自治体キャラバンは、県下の市町に要望書を提出し、各自治体当局と懇談を行うもの。

学習会は、社保協の加盟各団体が国保問題、後期高齢者医療制度、介護保険などテーマ別に説明を行った。質疑応答・討論では、制度の問題点への理解を深め、「要望書」実現の必要性を確認しあった。

この「要望書」は、10月初旬に5市6町へ提出しており、11月8日にたつの市、相生市、太子町、9日に赤穂市、上郡町、佐用町、10日に市川町、11日に姫路市、宍粟市、19日に福崎町、神河町との懇談を実施する予定。

日常診療
経験交流会

診療科を超えて交流

姫路・西播支部から3医療機関が演題発表



スライドを用いて報告する池内先生

10月24日に県農業会館で開催された第19回日常診療経験交流会で、姫路・西播支部より3医療機関から分科会の話題提供が行われ、活発な質疑応答が交わされた。

池内春樹理事長・支部副支部長(姫路市)は「特定健診、保健指導における血圧脈波検査装置の有用性について」というテーマで、実例なども紹介しながら、血圧脈波検査装置の活用方法を報告した。

高森信岳副支部長(たつの市)は「復職支援における医療的アプローチの実際と課題」と

題し、うつ病などで休職した者の職場復帰にあたり必要な精神科専門医と産業医の連携の経験と課題について報告した。

姫路市のだいたう循環器クリニック職員の浅田さやか氏は、「患者さんの趣味を生かした待合室作り」と題し、待合室を患者さんの趣味を披露する場とし、毎月違った展示物を飾る場とすることで、患者とスタッフ、患者同士のコミュニケーションが広がっていると医院の工夫を紹介した。

また、特別企画「救急フェスタ」では、清水映二副支部長(たつの市)が実技講習の講師をつとめ、BLSと背部叩打法と腹部突き上げ法を参加者に指導した。



質問に回答する高森先生



第228回幹事会から

10月16日(土) 於 姫路じばさんびる 参加 7人

- ◆姫路・西播支部の会員数 647人(医科 442人、歯科 205人)
- ◆情勢と運動対策、その他 「保険でより良い歯科医療を」連絡会の取り組みが紹介された。
- ◆支部の活動・企画 11月21日(日)秋のバスツアー、12月4日(土)地域医療を考える懇談会など

幹事会には、会員の先生はどなたでもご参加いただけます。お問い合わせは、Tel 078-393-1807 小西まで。